

## 3大夏風邪



夏の3大風邪

7月～9月に流行する感染症は「手足口病」「ヘルパンギーナ」「プール熱」が3大夏風邪とされています。免疫が発達していない子供は、免疫があまりないため感染しやすい。

夏風邪のウィルスは体内に3～4週間潜伏し、便と一緒に排泄され続けますから、特に唾液や、手の接触、おむつ替えなどで人から人へ移りやすいと言われています。

### 手足口病の症状

手・足・口に発疹や潰瘍ができる病気。急に38℃の発熱、口の痛み、手や足・おしりに発疹が見られる。熱は1～2日、痛みで食欲不振になるため脱水には注意が必要。

### ヘルパンギーナの症状

エンテロウイルスという、喉の中に長く居座るウィルスが原因なので喉からつながる口の中に発疹ができ、下痢の症状が出る場合があります。突然38℃以上の高熱が出て喉の奥が赤くなり口唇に特異的な発疹や潰瘍ができ、痛みが、酷くなります。

### プール熱の症状

プールの水を介して感染しやすいことから、プール熱と呼ばれています。アデノウイルスが原因の感染症で、感染力が強く、高熱、のどの発疹、充血、目やになどの炎症を起こし、39℃～40℃の熱が4日以上続きますが、比較的元気なのが特徴です。



エスカレーターの手すりや、ドアノブなどにウィルスや菌が付着している可能性があるため、外から帰ったら、すぐに手洗い、うがいをしましょう。疲れを溜めない生活をする 것도大事です。栄養と睡眠をきちんととって、免疫力を高めて体をウィルスから守りましょう☆

### 病後児保育室では

3大夏風邪の場合、解熱しており食事や水分が取れていることをお預かりの基準としています。